

おーじとしずくとたなっちの あの町この村ぶらり旅

Vol.01 有田川町特集



有田川を基盤とした、豊かな自然の町。

有田川町は、和歌山県中央部の有田郡にある町です。人と自然、山と町、農業と林業が調和し、これらをつなぐ統一的なイメージは有田川で、山から町にいたる流域のつながりを象徴しています。この有田川を中心に、山間部には高野龍神国定公園や生石高原(おしいこうげん)県立自然公園、棚田百選に選ばれている「あらぎ島」など、豊かな自然景観が広がります。数多くの観光地にも恵まれ、古い歴史に育まれた保田紙(やすだかみ)の紙すき体験、豊かな自然とふれ合う魚釣りやフルーツ狩り、町内に3カ所ある温泉めぐりなど、ご家族や友人らと楽しめるスポットも満載。町を代表する特産品として、有田みかんや山椒などが、生産量、品質ともに全国有数の味覚も豊富です。



有田ICから車で観光する際の所要時間を記載しとるので、参考にしてください。

有田川町へのアクセス

車の場合

「大阪・名古屋・京都方面から」
松原JCT
阪和自動車道 和歌山方面
→和歌山IC(約50分)
↓有田IC(約23分)下車

電車の場合

JR新大阪駅からJRきのくに線特急くろしおに乗り、JR藤並駅まで約90分。JR藤並駅からは下記に紹介している「有田川町観光施設巡回バス」を利用すると便利。連休日があるので、事前にご確認ください。



和歌山代表、有田みかん!



400年以上の歴史がある有田みかんは、和歌山を代表する地域ブランド品。県内のいたるところで作られているみかんですが、その生産量の6割を有田川町が占めており、全国の市場に発送されて好評を得ています。町内ではほかに、八朔、いよかん、ネーブルなど、さまざまな柑橘類も生産されています。

満開のコスモスたち。



鷲ヶ峰(わしがみね)コスモスパークでは、9月下旬から10月にかけて、町の花でもあるコスモスが見頃を迎えます。鷲ヶ峰の標高は586メートル。天気の良い日は淡路島、四国まで見渡せる360度の大パノラマを展開します。

山椒の生産は、日本一!

有田川町の山椒は町内全域に約50ヘクタールの作付面積があり、日本の生産量を誇っています。清水地区のぶどう山椒は大粒で香りもよく、最高級の品質といわれています。ぶどう山椒は有田川町遠井が発祥で、約180年前に栽培がスタート。高山植物の山椒にとり、標高約600メートルの同地は栽培に適していたのです。

3つの町がひとつに...

平成14年に吉備(きび)・金屋(かなや)・清水(しみず)3町合併協議会を発足、約3年間にわたり合併に関する協議が行われ、平成18年に吉備町・金屋町・清水町が合併し、新町として有田川町に生まれ変わりました。

無料観光バス。



JR藤並駅からしみず温泉方面までの間、町内観光施設を巡る「有田川町観光施設巡回バス」が平成21年に運行開始しました。何とこのオシャレなバス、無料なんです。愛称を一般公募した結果「せせらぎ号」に決定しました。また、町内施設には、観光客向けに電動機つき自転車のレンタルサービスも行っています。

かわいらしい二川歌舞伎。



二川歌舞伎は、城山神社で奉納上演されてきた狂言地芝居で、200年以上の伝統を継ぐ郷土芸能。城山神社には、和歌山県下では数少ない回り舞台(県指定有形民俗文化財)があり、その境内が二川歌舞伎芝居の舞台となります。毎年秋になると、地元の小生たちがこの伝統文化を、可愛らしく披露してくれます。

屈強な男たちの舞。

雨錫寺阿弥陀堂(うしやくじあみだどう)で、隔年の2月11日に行われる「杉野原の御田舞」は、豊稷満作を祈願する行事。屈強な男達が禪姿で肩を組み、太鼓を打ちながら唄陣子に合せて踊る「裸苗押し」は非常に勇壮です。



移りゆく四季を その雄大な姿に映して…。

日本の棚田百選に選ばれている「ありぎ島」。
扇状に広がる美しい棚田は江戸時代に開墾され、今もほぼその形状を保っている町のシンボリック景観です。季節ごとにその姿を変え、田植えや稲刈りの季節に地元の保育園児や一般の人々が作業体験をしたり、毎年9月6日には約1700本の竹灯籠にキャンドルを灯す「キャンドルナイトイベント」が行われたりと地域の人たちに愛されています。年間を通じての体験参加の詳細は「有田川町ふるさと開発公社」のホームページをご覧ください。
町の雄大な自然に出会い、3人はこれからの旅に胸を躍らせるのでした。



足元丸見え！ ドッキドキの吊橋体験。



緑の山々に映える真つ赤な吊橋は、全長約160メートルの蔵工橋(おぼほし)。よく見たら足下は鉄骨だけの頼りなことで、格子状だから真下の湖面が丸見え。昔は自動車が走っていたそうですよ。春になると桜が満開になり、二川ダムの綺麗な景観を楽しめるそうです。

昔も今も変わらずに、 人々を見守り続ける老樹。



国指定重要文化財に指定されている白岩丹生神社(しらいわにゆうじんじや。宮司の江尻さんによると)この神社には色々な神さまがいらしますが、主祭は水の神さまといわれていて、この地の農業復興を祈願してきましたとのこと。
注目すべきは本殿の装飾。上部が臺股(かえるまた)といわれる意匠で、建物正面は松と鳳凰、左右には牡丹、雲水に竜など、当時の匠の技をしのばせる精美な彫刻は、桃山文化を代表する優れたものとして、昭和30年に国の重要文化財に指定されました。



境内には、樹齢約500年以上のネズノ老樹が。成長の遅い樹だといわれているけれど、この立派で、きつと、神社ともにも遠い昔から町の人々を見守ってきたんですね。

その名も「宝来宝来神社」、 パワースポットで開運祈願！

日本有数のパワースポット「大神力石 当選岩さま」を有する宝来宝来神社の御神体は熊本県、紀州宝来宝来神社は、当選岩に向かひて、目の前の夢を掴むよう、写真のように手を合わせて左右に引き寄せ、「ホギホギ！」と2回唱えるところ。絵馬には、和歌山県ならではの願いごとも…。



古き良き伝統文化、ふるさと体験



町内にある「体験交流工房わらし」では、清水地域の伝統文化である「紀州保田紙」の紙すき体験や、わらし作り、「木工等体験センター」では木工体験など、各種手作り体験を地元の方々が指導してくれまます。まずは紙すき体験にチャレンジ。紀州保田紙は、今から約400年前に作られたといわれています。楮(こうぞ)の木の繊維と、とろろあいの糊、清水の真水を混ぜ合わせたものを、すき舟を使っていきます。ぬめりのある水の中で、すき舟を縦横に動かしてすき、お日さまの光にあてて乾かせば完成。和紙は光にあてればあてるほど白くなっていくそうです。



続いて、わらし作り。わらを編むのは難しくそうに感じるけど、おばあちゃんたちが分かりやすく教えてくれました。4本のわら束を縦軸に、横軸はわらをうえから通し、したから通し…を繰り返して編んでいきます。足の指に挟んだ方と、手前で編んでいる方とをしっかりとギョッとひっぱりながら編まないと、緩んでしまいます。「力を込めて作れば作るほど、丈夫なぞうりができあがるんですよ」
あむこと数時間、わらし作りができました。そして、最後に自分好みのカラフルな鼻緒を選んで、完成です。
手作り体験だけではなく、地元の人々との何気ないおしゃべりも、すてきな旅の思い出になりました。

冒にも美味しい匂づくし。自然のご馳走いただきます。



「旅館 白馬(しらま)」では、町の名産をふんだんに使ったお料理が食べられます。松茸や山菜、川魚や地鶏、町の郷土料理のひとつでもあるわさび寿司など、旬の味覚がギョツと詰まった「しみずの幸てん」盛り御膳(3日前までに要予約)がオススメのひとつ。旅館ではランチも食べられるので、お越しの際はぜひ。

町の郷土料理でもあるわさび寿司は、サハ寿司をわさびの葉で巻いたもの。甘酸っぱい塩サバに、ほんのり辛味のあるわさびの葉がマッチして美味しいよ。



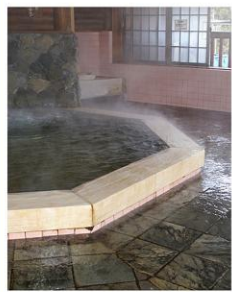
温泉大好きなうちのほっこり温泉紹介



一川温泉
杉の木でできたドーム型の外観が目印。川のせせらぎを聞きながらのんびり。
泉質/中性低張性冷鉱泉



しみず温泉健康館
眺めの良い山あいの温泉は、ユークな八角形の建物。泉質/ナトリウム塩化物炭酸水素塩冷鉱泉



かなや明恵峡温泉
大自然を眺めながらの露天風呂がや、ジエツバナス、岩盤浴などでも心もリフレッシュ！
泉質/アルカリ性低張性冷鉱泉



大人(中学生以上)600円 小人(4歳以上)300円

利用客に優しい図書館は、飲食OKの憩いの空間。

本のあるカフェをコンセプトに作られた有田川町地域交流センターA・R・E・C(アレック)は、本格コーヒーやパニーなど、美味しいメニューを飲食しながら本を楽しむ開放的な図書館。さらに、開放感あふれる屋外広場でも本が読めます。小説や雑誌などは新刊を揃えて約4万冊。約3万冊のマンガが読めるマンガ館も人気のひとつ。こちらには最新のマンガだけでなく、普段なかなか見られない貴重な本も閲覧できちゃいます。さらに、町として全国初の電子図書館システムを導入しています。インターネットの利用も無料、年間約10万人の利用客数も頷けます。



しみずみ
手塚治虫先生大好きだ。初期の頃のマンガって見る機会ないから貴重だよ。



レトロな電車がいつまでも愛され続ける理由。

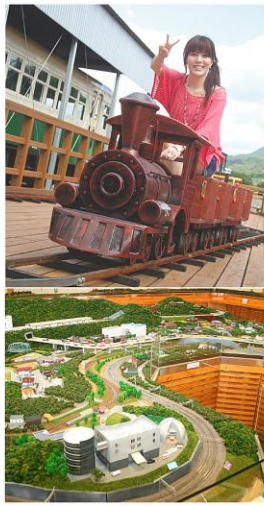


「有田川町鉄道公園」にきました。ここでは、旧有田鉄道で実際に有田川町を走っていた電車が今でも動態保存されています。全国の鉄道オタク、展示されている電車で実際に乗っていた方々など、幅広い年代の方が来園されるそうです。右の写真は「キハ58-003」。001・003と3つの型ある中で、この003だけが前後に運転席が備えつけられています。単線仕様で、同じ線路を行き来していたからなんだって。毎週土・日曜日(祝日)には、実際にお客様を乗せて運行します。



そして、こちらは「ハイモ180101」。中を覗くと、吊革やドアの雰囲気は電車ではなくバスみたい。正式名称は「ハイモ180101キターカー」といって、すごく速そうな名前だけど、そんなに速くは走らないんだそう。

屋外には自家発電の小さな機関車があり、実際に乗って遊べます。建物内には有田川町を簡略化して作られたジオラマが展示しており、Nゲージを実際に走らせることができます(有料)。3人もどんどん電車に興味が出てきたよ！



紀州有田巨峰村で有田川町の恵みに出会う。



美味しいから、ぜひ食べに来て欲しいですね。さっそく巨峰狩り体験。すっしりと重い房、その場でいただいた粒には、甘味がギョツと詰まって、とても美味しかったです。8月中旬から9月下旬までの間、収穫できるフルーツは気候が大きく左右されるので、来園の際はよく調べて来てね。



おーじかん 発見!
巨峰村でよく見かけるこの乗物。これは傾斜がキツいみるか煙で収穫をする時コンテナにたくさんのみかんを乗せて運ぶトラックなんだよ。



巨峰村で見つけたこの屋根の削ぎ落とされたトラック。車に乗ったまま効率よくぶどうを収穫するための工夫なんだそう。だれぞ、道路を走ったらヒックリしちゃうよ。



ふるさとの偉人、明恵上人を訪ねて

明恵上人は鎌倉時代に活躍した、有田川町出身の華厳宗(けんしゆ)の高僧。
町内には、上人の誕生地である「吉原遺跡」や、26歳までの3年間、修行を重ねた「筏立(いかだち)遺跡」など、ゆかりの遺跡が4カ所あり、国の史跡に指定されています。
建永元年(1206年)、上人が34歳のとき、後鳥羽上皇から京都の梅尾(まがの)の地を賜って高山寺を建立、またその翌年に東大寺の学頭になりました。たくさんのお著書を残し、多くの人々に慕われた上人は、自らが育てた優秀な弟子たちに見守られ、高山寺で60年という生涯に幕を閉じました。



西行、芭蕉と並ぶ 連歌の巨匠、宗祇法師。

漂泊の詩人である宗祇法師(そうぎほうし)は、文学に志をたて、時の將軍から「歌会所奉行」・朝廷から「花の下(はなのもと)」という称号を賜った、室町時代を代表する文化人です。有田川町出身といわれる宗祇の屋敷跡には、石碑と井戸跡が残されています。



上人について、郷土史を研究している川岸先生にお話を伺いました。うっそうとした山荘風の書齋に山積する書物と骨董、先生の知識の源を垣間見る思いです。
「上人は19歳から亡くなるまで、ずっと夢を記していました。当時、夢は特別な意味を持つと考えられていたんです。そして、上人は、幼い頃に亡くなった両親を慕う気持ちが強く、子犬を見ては両親の生まれ変わりと考えたそうです。」
晩年、夢で上人の足許に黒い子犬がまわりつた。清らかなイメージの白い子犬ではなく、煩悩や我欲を表す黒い子犬。それを見たとき、上人は「厳しい修行を貫き、いくら清僧と呼ばれても、やはり自分はひとり人間だったんだと悟るのです。後年、名誉と利益を離れ、純真無垢にその生涯を生きた上人の人生に、川端康成や湯川秀樹など、多くの著名人が感銘を受けたそうです。」

月を愛でる会

月の歌人でもある上人について各地でお話を聞かせていただけます。有田川町吹奏楽団による演奏も。

町の特産、 ぶどう山椒。

有田川町の特産品といえはぶどう山椒。
ウナギにかけるだけではなく、町では色々なアイデア加工品がうまれています。特にオスソメの2品、「山椒カレー」は、カレーと山椒の風味が絶妙。「山椒塩」は、天ぷらなど普段の料理にピリリと上品な辛味を与えます。クセになる風味と香りを是非お試しください。



宮地さんのお宅におじゃまして 郷土料理をいただきました!

町で昔から食べられている郷土料理秋のお祭りの季節によく作られていた「なれ寿司」と「鎌倉漬け」を、宮地さんに作っていただきました。
なれ寿司には、早なれ寿司と本なれ寿司があり、和歌山県の中華そば屋さんにあるものが早なれ寿司。本なれ寿司とは、お寿司を醗酵させたもので今はすっかり作る人も減ったんだそう。宮地さん宅のなれ寿司はあせの葉で巻いてあり、ゴハンには梅酢を使っているそう。なれ寿司は、家庭でそれぞれ味が違うそうです。
かつて、有田川町の女性は、寿司桶をお嫁入りのときに持っていたそう。この地域の人の暮らしに根づいた食べものだったのだですね。
昔々、鎌倉から江戸に送られた魚たちから作られた「鎌倉漬け」とは、しめサバにんにんじん、れんこん、だいこん、昆布、しょうがを塩でしんなりさせて、甘酢に漬けたもの。自家製のしょうがが効いて美味しく、どこか懐かしい味わい。
風味豊かな郷土料理に、3人は大感激するのでした。



有田川町の お宿紹介



町内の宿泊施設は、町内2カ所の温泉施設をはじめ、古民家の宿や「グリーシ、アウトドア」を楽しむトリーハウスなど多彩。
ご宿泊の際は、ダウンロードページのリンクからお宿を調べてね。詳しくは有田川町役場にお問い合わせください。

カマランしまつちの ぶらりベストショット!



明恵上人の「筏立遺跡」で赤トンボを発見。しまつちがシャッター半分て人差し指を立てたら、何となく、止まっちゃった! 人なつこいトンボだね。

編集後記

有田川町での取材で、まだオレンジ色になっていない青いみかんをたくさん見ました。和歌山に印家に残っていたのですが、9月某日、和歌山市内で秋の訪れを告げるような大雨が降ったときにふと思いました。「あのみかんたちは大丈夫かな?」
今まではそんな下らない悩みもなかったのに。これから21町村を訪れていく内に、私の中に今までは違っていた何か生まれていくのかな? 来月は高野町に行きまーす! たなち

取材に協力いただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。